

令和2年度第2回 京丹後市文化財保護審議会

- 1 開催日時 令和2年11月17日(火) 午後1時30分～午後4時30分
- 2 開催場所 京丹後市大宮庁舎第2・3会議室
- 3 出席者 藤田泰弘会長、足達礼三郎副会長、田中光浩委員、尾崎容樹委員、
澤吉博委員、芝野吉実委員、畑中順二委員、小西安子委員
事務局 吉岡教育長、横島教育次長、新谷課長、岡林係長、
奥主事、古橋主事
欠席者 松尾秀行委員、水口政弘委員
傍聴人 0人

4 内容

1 開会

〈事務局〉

皆さんこんにちは。ただいまより令和2年度第2回京丹後市文化財保護審議会を開催させていただきます。

最初に、教育長よりご挨拶いただきます。

〈教育長〉

本日は、何かとご多用のところ、委員の皆様には本年度第2回文化財保護審議会にご出席いただきありがとうございます。

暖かい日が続いていますが、朝晩、寒くなってきました。今年の冬は長期予報では雪が多そうに言っています。昨年一昨年と雪が少なく過ごしやすかったのですが、今年も大雪にならないことを願っているところです。

また、コロナの関係は全国的に感染者が増加傾向にあり第3波と言われておりますし、先日本市でも感染者が出ました。秋は、多くの行事がありますので、市でも感染予防対策を行いながら実施しているところではありますが、インフルエンザが流行しやすい季節にもなりますので、皆さんにも体調管理には気を付けていただきたいと思います。

前回7月31日開催の審議会では、金刀比羅神社石造狛猫をはじめとする5件の文化財の指定について、答申をいただきました。委員の皆様には、この間、慎重なご審議をいただきありがとうございました。答申内容を踏まえ、9月1日開催の定例教育委員会で承認を得て文化財指定を行ったことを報告させていただきます。

また、前回、次回の審議会は網野銚子山古墳の現地視察というお話をさせていただ

いていましたが、気候が寒くなってきたことや間もなく今年度の工事が始まるタイミングと重なったこともあり、工事が終了する来年の春に延期をさせていただきたいと考えています。

本日の審議会では、最初に今年度事業の途中経過の報告を行い、次に12月3日に舞鶴市を当番市として開催される両丹文化財保護連絡協議会について確認し、最後に次の指定文化財の指定についてのご審議をお願いしたいと思っています。

本日も最後まで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<事務局>

ありがとうございました。続きまして、会長から一言ご挨拶をいただきたいと思えます。

<会長>

皆さん今日のご苦勞様でございます。

教育長からもありましたように、嫌な時期になってまいりました。今日はたまたまこのようなよい天気ではありますけれども、コロナも含めて、いつ何があってもおかしくないような時期だというふうに肝に銘じています。

本日は、文化財関連事業について、それから、12月初旬にあります両丹文化財保護連絡協議会の要項について、最後に、指定文化財についてという3本立てプラスその他ということでご審議を賜ります。皆さんよろしくお願い致します。

丁寧なレジメ、資料をつくっていただきありがとうございます。

早速ですが議事に入らせていただきます。

2 議事

(1) 令和2年度文化財関係事業について（資料1～2）

<会長>

令和2年度文化財関係事業について、事務局よりご説明をお願いします。

【事務局報告】

- ・資料1～2
- ・口頭説明

<会長>

ありがとうございます。質問等がありましたらお願いします。

3番の整備工事ですけども、具体的にどんなことをするか、前回説明はされましたが再度確認の意味でお願いします。

<事務局>

今年度の工事につきましては、平成30年度から3か年目ということになりますが、まずは墳丘の整理伐採ということで、例えば市街地から見下ろしたり周辺から見るにあたって墳丘の形がよくわかるように整理伐採をしていくということが1つあります。

あと墳丘裾の周溝については、その形がわかるような平面表示という形で砂舗装をしていく計画をしているところです。

今年度新しく付け加えるところとしては、くびれ部に墳丘に登る階段を新設するというような形で考えているところです。

<会長>

ありがとうございました。予定のとおり順調に推移をしているということでよろしいですね。

<事務局>

事業費の関係があり後ろ倒し気味に進んでるような印象がありますけれども、できる限りのことを着実に進めているということにはなるかと思えます。

<会長>

ありがとうございます。ご苦労様です。

ついでに私のほうから聞かせていただきますけど、2番目の琴引浜鳴き砂文化館の指定管理についてです。これは掛津区から琴引浜の鳴り砂を守る会のほうへ指定管理者が変わったというふうに理解をさせていただいたらよろしいわけですね。

<事務局>

来年の3月31日までは掛津区にお世話になりますが、4月1日以降は琴引浜の鳴り砂を守る会にお世話になることで決まったというご報告です。

<会長>

決まってよかったなと私も思っています。

それからついでにもう1つ。上野遺跡の展示ですけども、入館者が581人という近年稀に見るほど来ていただいたということですが、どのような声が多かったですか。ご紹介いただければと思います。

<事務局>

新聞報道等で結構大きく出たこともあり、文化財保護課のほうにもどこでやっているのかとわざわざ聞きに来られる方も何人かおられて、そういう方の対応はさせていただいたと記憶していますし、用意していた資料が早くに捌けてしまって途中で追加

をしたりして、私どもが思った以上に反響が大きかったなという印象は持っています。

最古というキャッチフレーズがついていたこともあり、そこに皆さん惹かれて来られたのかなということと、たまたま連休だったこともあるので、お越しいただくのによりちょうどよい機会になったという印象を持っています。

<会長>

ありがとうございます。質問等ありましたらお願いします。

<委員>

丹後から出ています有舌尖頭器、それが比較すると同じような時代になってくると思いますが、何本出ていますか。

それと、久美浜からその時代に匹敵するような遺物が出たと聞いたことがあるのですが、そのあたりの関連性はどうなっていますか。

<事務局>

有舌尖頭器は途中ヶ丘で1点、久美浜町内で1点、奈具岡遺跡で1点出ていて、3点であったかと思えます。

上野遺跡の時代は3万6千年前なので、有舌尖頭器はもう少し時代が新しかったと思います。それよりも古くなるということで今回最古という言い方をされていたと思います。

もう1つおっしゃっていた久美浜町内の遺物については、だいぶ昔に京都府埋蔵文化財センター（以下：埋文センター）が掘られた鳥取城跡の石器のことだと思います。これは年代観がきっちり決め切れていなかったような気がしますが、旧石器時代に遡る可能性があるということで報告されていたと記憶しています。今回はそれよりもさらに古いという見方でよいのかなと思っています。

<会長>

それに関連する質問になります。上野遺跡ですけれども、旧石器といえるのかという問題なのですが、石刃技法が確立をしてからなのか、未確立の状態の中に出てくるのか、このあたりはどうですか。埋文センターはどのような見解ですか。ご存知でしたら教えてください。

<事務局>

今回展示していました遺物が、後期旧石器時代の前半期で、石刃技法が確立されて普及するのが後期旧石器時代の後半期です。前半期のほうは石刃技法があつたりなかったり平行するか若干古いのか、台形石器と言われるものが出てくる時期ですのでそれぐらいの時期になるかと思えます。

<会長>

ということは確立はしていないということですね。それに向かうような時期の石器群だということでしょうね。ありがとうございます。

<委員>

現在、丹後古代の里資料館は改修中ですが、その横に竪穴住居を復元したものが3棟あります。あれは今だったら直せるが、これ以上朽ちてくると手が付けられないような木材や茅葺といった自然の材料を使っているばかりに、手が付けられない状態になりかねない、もう既になってるかもわからない。そのあたりも考えていただけたらと思います。

<事務局>

原課としては直したいという思いはありますし、かかる経費も確認しています。ただ、直すものがたくさんあるため順番を考えながらとなっています。いずれは直したいとは思っていますが今年度の段階ではできていない状況です。

(2) 令和2年度両丹文化財保護連絡協議会について(資料3)

<会長>

そうしましたら、議題(2)に移りたいと思います。お願いします。

【事務局報告】

- ・資料3
- ・口頭説明

<会長>

ということですのでどうですか。皆さんの中で、基本的には我々審議会の委員が一堂に会するわけで、報告案をそこから上げてほしいということです。今回の議題に沿って適切な方がおいでになるのであればしたらお任せをするということになりますし、そうでなければ事務局のほうにお願いをするということですが、どなたかおいでになりますか。

では、お任せをするといういうことでよろしいですね。現に文化財行政としてお見えにもなっていますし、山城歩きという形で表面で活動をされていますので、この依頼についてはお願いするのが一番相応しいだろうなと私も思います。よろしいですね。

<事務局>

了解しました。先ほど申し上げましたような内容で、ちょうど関連行事などもされていますし、例えば今週の日曜日にモノオペラの公演がありますけども、そういった形で地元のほうでいろいろと一生懸命されておられる方々がおられますし、東屋の建設等もされていますので、そういったあたりを簡単に報告させていただくような内容で進めさせていただこうと思っています。

この件に関しては、発表については事務局のほうですということ準備をさせていただくこととなります。

当日の出欠の確認をさせていただきます。この日はどうしても都合が悪いという方がおられますか。皆さんご出席でよろしいですか。

<会長>

集合は12時ですか。

<事務局>

そうですね。12時集合でよいと思っています。

<会長>

ここにお集まりの方については、12月3日、12時には出発をするということでお集まりいただくということ。

<事務局>

当日は車2台で移動させていただこうと思います。よろしく申し上げます。

<会長>

欠席の委員については出欠の確認をよろしく申し上げます。

(3) その他

<会長>

次に、(3) その他ということで、皆さんご発言をお願いします。

では、私のほうから。

時代区分と言うか、今日の議題には全く関係ないですが、今、峰山町新町のほうで埋文センターが発掘をしています。新町区の区民だよりを見る機会がありまして、へえと思って感心をしたのですが、日本の時代区分というので、よく言われるのは鎌倉の初めを「イクニツクロウ」ではなくて今は「1185」ですよ。征夷大將軍に任命をしたという事実からではなく、守護・地頭を置き幕府の権力が確立した時です。時代区分はそのあたりはよく言われることです。

今聞きたいのは、弥生時代の初めを、紀元前の10世紀頃から紀元後の3世紀というふうに、この新町区の区民だよりはたぶん埋文センターから聞いてこういうふうに載せているのでしょうか、とうとう丹後にもこの波が来たなというふうに思っ、ちょっと見解をと。

弥生時代の開始年代がだいぶ上に上がっていますよね。これは全国的な傾向で、徐々にこういう形になっていくのだろうなと思っているのですが、当市においてはどんなふうにされるのかなと興味津々で。

紀元前3世紀というのが1つの、我々が徹底的に習ったところですけど、随分上がりましたよね。新しい年代観と言うよりは新しい年代測定法なのでしょうけれども、この成果が少しずつ全国に広まろうとしているということですが、いかがですか。

<委員>

扇谷遺跡の場合には、カーボン14ということで分析してもらって、年代は紀元前3世紀ということに決まっています。そういうきちんとした資料が出ていても、場所が悪いとか、どうかこうとかという苦情はたくさん出てきます。

1つのものを前提として分析すれば、それ以外に言うことはないのですが、そういうふうな認識の中で年代というのは考えていって、例えば丹後と九州、これは同じものが出てやはり年代差というのがあると思いますし、ある程度の含みを持った形で、データはデータとして認識していただいて、そして地域の違いというのは他の考え方でやっていただいたらよいのではないかと思います。

<事務局>

丹後古代の里資料館の展示パネルはまだ変えていないです。従来通りの年代観で書かせていただいている、当面の間はそのままで行かせていただきたいと思います。

実際のところ、鉄の生産の関係で、AMS法という年代測定法の関係で時代が上がるということと言われておりました。東アジア全体で見たときに鉄製品の生産の開始がいつかという視点から研究がされています。いつの段階で年代観を更新するかは、すごい悩みどころです。現状は、当面の間そのまま置いているという感じです。

学校の教科書とかそういったところがまだそこまで対応していなかったと思いますので、あまり早くに変わるのも混乱の要素になるのではと思います。そのあたりも含め、今のところはそのままにしています。教科書などが上がった年代観に則って改定されるということになれば、変えていかないといけないと思っています。

<会長>

ありがとうございます。言っている本人が変な質問だと思いつつ、こんなことを聞かれても困るだろうと思ってるんですけど。

国立系の研究機関を中心に、新しいこの年代観で物語が語られるという時代になってきて、その余波がとうとう来たと思っています。先ほどの、ラジオカーボンの

14の年代観に基づいてというあのお話は、随分前から年代がかなり新しく出ていくと言うのです。これはずっと指摘され続けました。それを他のもので補正していくと、どうもやっぱり違うよねという、そういう研究成果だろうと思いますし、それを出したところは随分自信も持っています。ただ、おっしゃったように教科書は変わっていません。問題はそれが変わってくるような時世になったということなので、少し見解をお伺いしておこうかなと思った次第です。変なことを申しましてすみません。

皆さん、他に質問ありませんか。

<委員>

今の年代の件ですけれども、年輪年代法というのがあって、木の年輪を数えていって、何年の木だと測定をする場合があります。仏像などは、その木を利用して絶対年代を弾き出しているようです。年輪についても、北と南と違いますけれども、ピッチがありますからそれは一緒になります。それで、いろいろなところから出てきた木をデータ化し、特にピッチを見て続けていき、年代を測定する方法があります。それは絶対年代です。木が残っていたら、そういったものも参考にして研究がされているようです。

<会長>

ありがとうございます。それでは暫時休憩します。

【休憩中】

3 京丹後市指定文化財について（非公開）

4 閉会

<事務局>

長時間お世話になり、ありがとうございました。

最後に一言ご挨拶いただければと思います。

<委員>

長時間ご苦勞様でした。いつもながら予算の関係で少ない中でやっていただくということなんですけれども、1個ずつ解決していかざるを得ないので、遅くとも進めていただきたいと思います。

今日はどうも長い間ご苦勞様でした。

<事務局>

ありがとうございました。以上をもちまして第2回文化財保護審議会を終了しま

す。本日はお疲れ様でした。